
将軍足利義昭伝

hisuison

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

將軍足利義昭伝

【Nコード】

N4669T

【作者名】

h i s u i s o n

【あらすじ】

信長と義昭の関係とは

時は戦国、日々生き延びることのみを求める民・領地を拡大するために進む戦国武将達・そしてここに蜂蜜を手に入れるためにだけに戦う将軍が・・・足利義昭がいた。

「藤長く、蜂蜜はまだかや！ まろは蜂蜜が食べたいぞく。」

大将の陣幕から響く大きな声が、周りを取り囲む親衛隊の緊張を取り除き堺から京へ向けて戻っている最中だと言うことを忘れさせる。当の本人は小柄な体で一生懸命叫んでいるのだが、その声は聞こえて7メートル先ぐらいまでだろう、クリっとした眼・茶色の瞳・整った黒髪を腰まで伸ばし・白を基調とした平安貴族の服装だ、胸はつる・・・まだまだ成長前みたいだ、大丈夫まだまだ大きくなる可能性はある。

独り駄々をこねる義昭だが休憩中の陣幕の中にはお付きのむさ苦しい侍が4人だけであり、頬を膨らませながら端っこの方での字を書く事ぐらいしかできない。

これでも一応、我が日本国の足利將軍様なのだからびっくりである。それをみた付き人が『こんなので大丈夫なのか？ まあいいか可愛いから』『かわええのく、この前手に入れたカステイラとやらをあげようかの？』『ハアハア、義昭たん萌え』『あく寝みく・・・』など不謹慎なことばかり考えているが日本はまだ潰れてはいない・・・

「一色く・・・」叫び疲れた義昭は、寂しそうな顔で椅子に座りなおし袖に閉まっていた茶色の小瓶とりだし、蓋を開け中に入っているコンペイトウを口にほりこみ大人しく舐め始めた。

義昭がおやつタイムを待てずに食べ始めてから5分ほどたった頃、

休憩中の陣内の中に独りの女が馬に乗り入ってきた、女は近くの兵に馬を預けて義昭がいる陣幕に向かっていく。

そのことを知らない義昭は祝福の時のような顔でコンペイトウを舐めていた。

藤長はどこに行ったかわからが、今はこのかわゆいコンペイトウを食べるのが先じゃの！！

コンペイトウのあと一つだけにしておこう藤長は怒ると怖いしの、またまろがこのような物を食べてるとしれてはならん。

念のためと義昭は近くに構える付き人に喋りかける。

「ちと、そのそちよ一色が戻ってきたらココに着く前にまろに教えてたも。」

付き人の一人に命じた義昭だが、頷いた彼が陣幕を出る前に藤長が入ってきた・・・一色は入ってきたとたん義昭のもつ小瓶に目線がいったようだが義昭は小瓶の中のコンペイトウ選りをしてるので気がついていないみたいだ。

「義昭様。只今戻りましたよ、何ですかその小瓶は大人しく差し出してくださいね」

にこにこと素晴らしい微笑で近づく藤長に、声で気づいた義昭は【ひっぐー！】と音とともに椅子から転げ落ち瓶の中のコンペイトウを地面にぶちまけてしまい恐怖と共に残念さが加わり半泣き気味に後さる。

「藤長、ま、ま、まろは何も食べてないよ、こここ、これは先ほど拾ったのじゃー！」明らかにばれる嘘が彼女の口から溢れでているが藤長はニコニコと微笑みながら、愛らしい彼女の顔を見つめ【こえーなこの女絶対DSじゃの】など近くにいた付き人が思うことも完璧に無視している。

「義昭様、どうしたんですか？そんなモノよりこちらの蜂蜜を食べたほうがより一層可愛さが増しますよ」キラキラと光る蜂蜜の入

った瓶を持っていた包から取り出した藤長に対し、義昭は溢れ出そうな涎を袖でゴシゴシと拭き何事がなかったかのように「そうかえ！それではそれを食べねばならないのう、まろが食べなければその蜂蜜がかわいそうじゃしな」

目元にたまった涙もいつのまみやら無くなり、てちてちと藤長に走っていく義昭【後ろでこぼれたコンペイトウは付き人により綺麗に片付けられている】

藤長から蜂蜜を貰った義昭は夢中で蜂蜜を味わっているが、慌てすぎて口周りが蜂蜜だらけの義昭。

「義昭様、そろそろ行かないと時間に間に合いませんよ」頭の中が蜂蜜に八割方占領されていた、義昭を藤長は何とか4割に減らすことができたが今だ4割は蜂蜜のことで蜂蜜絶賛中の義昭。

しかし、義昭の脳では正常に戻った部分に今日の昼から会う客人の信長の噂を思い出してカタカタと小刻みに震え始める。

「ふ、ふ、ふゝじゝなゝがゝ！！まろを早く隠してまろ！！次こそは信長に殺されるのじゃ！！貰ったお金をこのような使い方をしてるとバレてしもうたらまろのお尻をあの硬い棒で叩かれるのじゃ！」
「まあまあ、この前貰った金貨も使ってしまったしましたがに厳しいですよ。いっそうのこと逃げちゃいますか？」「それなのじゃ！！まろは謙信の元に行っていると言ってたも」逃げ出そうとする義昭、そんな都合のいい世界はなく前から走ってくる信長使者・
・泣く泣く義昭は信長の前に連れだされ、夜の枕を濡らすことになった。

(後書き)

恋姫無双の袁術が可愛すぎる!!是非に袁術伝もだしてほしい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4669t/>

将軍足利義昭伝

2011年10月9日22時05分発行